

一年生ゼミにおける少人数ブロググループ運用報告

末 木 俊 之

A Report on a Small Blog Group Operation in a Freshmen Seminar

Toshiyuki SUEKI

1. 1年生ゼミでのブログ運用のきっかけ

数年前より、人間関係学科1年生のクラス(10～20名程度)のゼミを担当している。専門分野について学ぶゼミというのではなく、新入生の導入教育的な内容のゼミである。2005年度後期よりゼミにてブログを運用している。ブログを使い始めた経緯、運用、将来展望についてまとめた。

担当ゼミの主なる目的は以下の4点ほどである。

- ① 1年生の大学生活へのスムーズな適応をサポートすること。履修登録の相談等。
- ② 友人作りのサポート。学生相互理解のサポート。
- ③ 学生の把握。悩み等の把握・サポート、専門ゼミへの橋わたし。
- ④ 学生の情報発信力・表現力の向上。

週1回、1時間半のゼミが実施される。大教室で全体授業が行われる週と小教室でクラス単位のゼミが開かれる週が交互に繰り返される。基本的にはクラス単位のゼミでは、学生2、3人ずつ担当者を決めて、前週の全体授業の感想などを発表してもらうことになっている。

前期の全体授業が上記①目的で、大学生活の過ごし方・大学での学び方等について講義され、

クラス単位ゼミにおける感想発表が上記④を意図している。

上記②については、個別ゼミで小教室に集まることにより自然になされる会話、自己紹介が関わっている。

上記③については、後期(秋以降)の全体授業の内容が、各専門ゼミ担当教員の専門領域の説明・研究紹介となっていて、全体授業とクラス単位ゼミでの感想発表が関わっている。

2年間ほどは、クラス単位ゼミを普通の教室にて実施した。私が専門ゼミを持つ教員ではなく、学生の興味と合わないということもあり、学生の発言を引き出すのは難しかった。学生各自の自己紹介は形式的で、短すぎて、印象に残らない内容で、上記③「学生の把握」という目的を果たすのも難しい。また、活発な学生・おとなしい学生の格差も大きく、会話による学生全員の平等な把握も難しいものがある。

私は1年生のコンピュータ演習を担当している教員であり、ここ1、2年の学生が以前の学生と比較してパソコンに慣れ親しんでいるのは感じていた。メール・ネットサーフィンなどでパソコンを利用するのに問題のある学生はほとんど見当たらなくなっている。メール的な文章を書くのも昨今の学生は慣れていると思われる。クラス単位ゼミでもパソコンを使用して、まずはメール的な文章を書いて自己を表現して

もらうところから始めるほうが昨今の学生には良さそうであると感じていた。全体ゼミの感想発表でも、事前にある程度文書化してもらったほうが良いであろうと思われた。

その場合、ワープロで文書作成してもらう手もあるが、事前に文書を印刷し、ゼミの人数分コピーするのは1年生には難しい。自宅に個人的に使えるパソコン・プリンタを全員が持っている訳でもない。またワープロ文書は、作成後のファイルの管理も面倒である。しかし、昨今流行のブログなら文書管理は不要である。また、学生各自のブログのアドレスを一覧表示するメニューさえ用意してあれば、メンバー各自のブログを簡単に呼び出してパソコン画面に表示することができるので、事前の文書印刷・配布も不要となる。

以上の理由で、ブログをクラス単位ゼミで使ってみようと考え、世間一般に使われている無料ブログからゼミで使えるようなものを探すことから準備を始めた。

大学のゼミにて使えるブログということになると、明確なコミュニティ性とでも言うべき性格が必要であろう。以下の3点ほどの機能が最低限欲しい。

- ①教員（私）が中心になって1つのグループ（コミュニティ）を構築できること。
- ②ゼミメンバー以外の人間のブログ閲覧、コメント付加を排除できること。
- ③グループメンバーのブログへのリンク一覧が表示されるメニューが使えること。

『全部無料でつくるはじめてのブログ』（2005年株式会社廣済堂）を参照して、見えそうなブログを探したところ、2005年夏時点で唯一「はてなダイアリー」がそれらの条件を満たしていることがわかった。

2. グループ日記構築手順

2-1. 管理者によるグループ構築

ゼミが始まる前にまずグループ構築を行った。「はてなダイアリー」に管理者自身のユーザ登録を行った後、グループを構築する。「はてなダイ



(図1)

アリー」にユーザ登録済みであれば、だれでも管理者となって新しいグループを構築できるのがこのブログの便利な点である。

(図1)の「はてなグループ」ページ URL (<http://g.hatena.ne.jp/>) の画面にて、画面上方の「グループ」をクリックするかまたは、画面右方の「グループ一覧・作成」ボタンをクリックすることにより、(図2)のページに展開する。

(図2)画面は、(図1)画面から展開した画面である。“tsueki999”というユーザ(私)が管理者となっているグループがすでに2つ構築済みであることがわかる。2005年度と、2006年度のゼミ用の2つのグループである。

2005年度のグループは2005年9月に、2006年度のグループは2006年4月にグループを作成した。(図2)画面の「グループを作成する」ボタンをクリックして新規グループを簡単に作成することができる。

学内のメンバーで閉じている非公開グループとしてグループ構築したので、余計な情報はいっさい書き込まずに作成した。グループの目的・グループ紹介など一切書き込まなくてもグループ作成が可能であった。単にグループ名称(tsueki999、tsueki2006など)が公開されるだけ

である。

2-2. 学生ユーザ登録・グループへの参加登録

クラス単位ゼミの初め、コンピュータルームにて学生各自1台のパソコンを使ってブログを書くための準備をする。クラスの学生数は10名から20名程度であるが、最低2回分の授業時間(3時間)が必要であった。

「はてなダイアリー」でのユーザ登録、グループへの参加登録は、結構面倒な手順となっている。登録作業には電子メールも使用するので、ユーザ登録を行う前にはメールアドレス登録も必要である。手順が面倒なため教員も一緒にダミー学生登録を行い、学生とペースを合わせて1ステップずつゆっくり丁寧に手順を見せながら進行する必要がある。

メールはなんでも良いのであるが、yahooメールを使った。yahooメールにユーザ登録する作業も学生のペースに合わせて一緒に行った。そして、「はてなダイアリー」へのユーザ登録作業となる。

(図3)の“はてなダイアリー”(URL:<http://d.hatena.ne.jp/>) ページからユーザ登録する。画面上方の「ユーザ登録」をクリックするかまたは、「無料ユーザ登録」ボタンをクリ



(図2)



(図 3)

ックすることにより、登録画面に展開する。ユーザ名・パスワードを決定し、メールアドレスなどの必要事項を入力し、ユーザ登録するわけであるが、登録が完了すると「仮登録通知」メールが学生各自のメールアドレスに送信されてくる。そのメールに登録を確定するためのホームページアドレスが記載されており、そのページを呼び出して登録が確定される仕組みになっている。

このユーザ登録にメールが使われる点が面倒で、学生に混乱をきたした。2005年度にはじめて「はてなダイアリー」を運用した時には、先立って登録しておいたメールアドレスとパスワードを忘れてしまい、「仮登録通知」メールを見られない学生が数名あり混乱した。この反省に基づいて2006年度は、「はてなダイアリー」へのユーザ登録作業のための作業メモを作成・配布し、「はてなダイアリー」へのユーザ登録名・パスワード、yahoo メールへのユーザ登録名・パスワードを忘れないようにメモ書きさせた。

それでもなお、メモ書きしたパスワードなどが不正確でメールが見られなかった学生がいた。登録作業に不慣れな学生とそうでない学生の差が大きいためである。

ここまでの作業はおおよそ授業1回分（1時間30分）の時間を必要とした。

ここまでの作業で学生各自は、自分のブログを作成することができる。日記のデザインを決め、「公開／非公開」の設定を行いブログを書くことができる状態になる。

(図 4) は、日記の公開設定である。「公開／非公開」の設定は、「プライベート」をチェックするように指示した。そうすることにより、ブログを書いているユーザ（自分自身）のみが閲覧可能となる。

(図 4) 上方「最新の日記」をクリックすると、自分が書いた最新のブログ文書が表示される。「日記を書く」をクリックすると編集モードに移行し、新規文書を書ける状態になる。

ただし、この1回目の作業で作成されるプロ



(図4)

グは、グループメンバーに公開するブログとしては使いにくい。ここが「はてなダイアリー」の混乱するところである。このブログはプライベート日記と名づけられるようなブログであり、グループメンバーに公開されない秘密の・自分だけのプライベートな日記として使えるブログである。

2回目の授業で、学生各自がグループのメンバーとして登録された段階でもう1つのブログが使えるようになる。もう1つのブログは、グループメンバー全員から閲覧可能なブログとなる。このブログをグループ日記と呼ぶ。

つまり、「はてなダイアリー」のグループに参加しているメンバー各自は、全く独立した2つのブログ、プライベート日記とグループ日記の2つのブログを運用できることになる。

1回目の授業の最後に、1枚のシートを学生に回覧し、「はてなダイアリー」に登録した各自のユーザ名を書き込んでもらう。

2-3. グループメンバーへの招待状発行

1回目の授業の後、登録された全メンバーのユーザ名をグループに登録すると、ユーザに対して招待状（メールによる通知）が自動的に送信される。この作業を2回目の授業までに終わらせておく。(図2)画面にて、「参加者一覧」

をクリックすると、(図5)のグループ参加者一覧画面に移行する。(図5)の画面はtsueki2006(2006年度ゼミ用グループ)グループ参加者の一覧画面である。すでに何人かのユーザ名が登録済みであるが、最初は管理者のユーザ名のみが登録されているだけである。

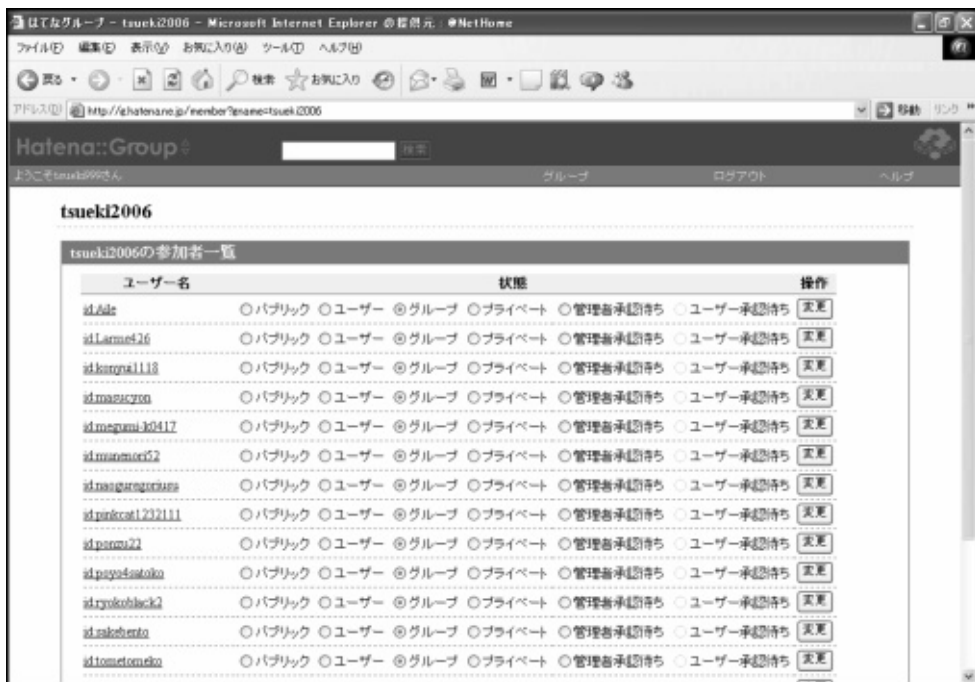
(図6)はグループ参加者一覧画面下部の様子である。最下行に空白の入力ボックスがある。ここに招待したいユーザのユーザ名を入力し、行右の「追加」ボタンをクリックすることにより、そのユーザに対して招待状（メール）が自動的に送信される。

2-4. グループへの参加受諾

2回目の授業では、まず学生各自は自分宛の招待状（メール）を開く。招待状に記載されている内容を読み、指示に従い招待受諾作業を行い、日記のデザインを決め、「日記の公開」設定を終えるとグループ日記を作成できる状態になる。

(図7)はグループ日記の設定画面の様子である。「日記の公開」設定では、“グループ”をチェックするように指示した。

(図8)は、“tsueki2006”グループのグループ画面(URL: <http://tsueki2006.g.hatena.ne.jp/>)である。メンバー各自がグループ日記に書



(図 5)



(図 6)

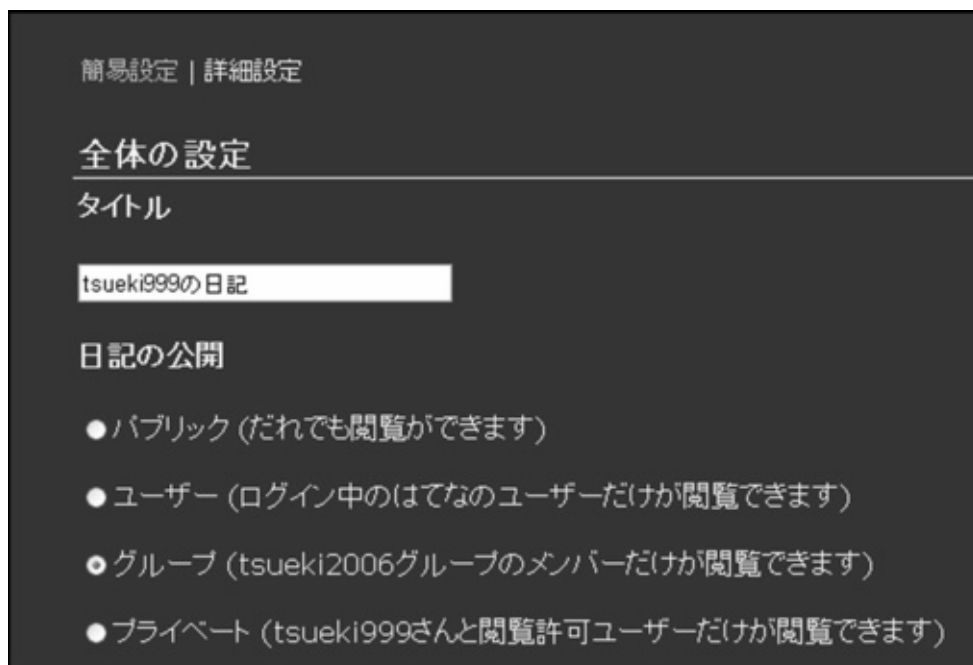
き込むとページの左側にブログの名称が出現する。変更しない限り、メンバー各自のブログの名称は、「ユーザ名」+「の日記」となる。書き込み日時が新しいほど上位に表示される仕組みになっており、更新が無い日記は表示が次第に下位に下がっていく。新規書き込みがある日記を簡単に見つけることができ便利である。

2-5. グループメニュー画面呼び出しの工

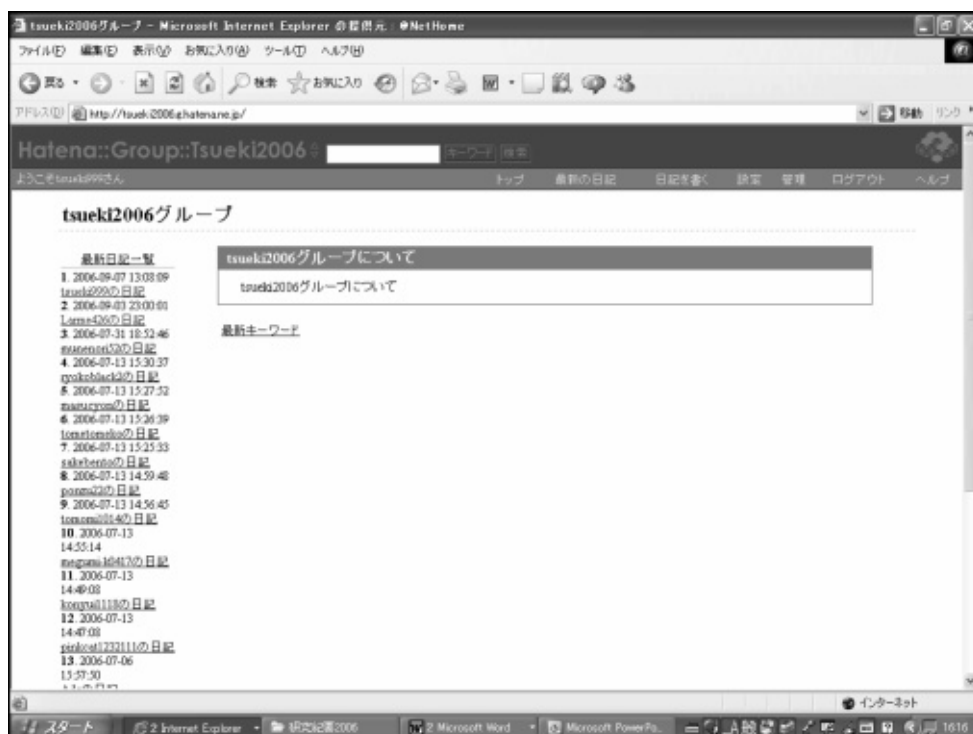
夫

「はてなダイアリー」のグループに参加しているメンバー各自は、全く独立した2つのブログ、プライベート日記とグループ日記の2つのブログを運用できることになる。

(図 3) “はてなダイアリー” (URL: <http://d.hatena.ne.jp/>) ページからログインした場合には、プライベート日記に移行する。



(図 7)



(図 8)

(図8)のグループメニュー画面にてメンバー各自のブログへのリンクがクリックされた場合には、グループ日記に移行する。(図8)は“tsueki2006”グループのグループ画面(URL: <http://tsueki2006.g.hatena.ne.jp/>)である。この画面から2006年度の新入生各自のグループ日記に移行できる。

ゼミのための書き込みを行うには、必ず(図8)のグループメニュー画面から移行するブログに書き込まなければメンバーが閲覧できない。学生が混乱しないように、グループメニュー画面が容易に呼び出せるような工夫が必要であった。

学内で学生がブログの閲覧・書き込みを行うのは、ゼミで使用しているコンピュータ演習室か開放コンピュータールームのパソコンに限られるので、これらの教室のホームページから簡単に(図8)のグループ画面に移行できるようにリンクを追加した。

(図9)は、ゼミで使用しているコンピュータ演習室のホームページの様子である。画面下方に“tsueki999グループ”、“tsueki2006グループ”というリンクがあるが、それぞれクリックすることにより、2005年度ゼミグループ画面、2006年度ゼミグループ画面に移行できるようになっ

ている。これで学生は誤り無く自分の属するブロググループのメニュー画面を呼び出して作業できる。

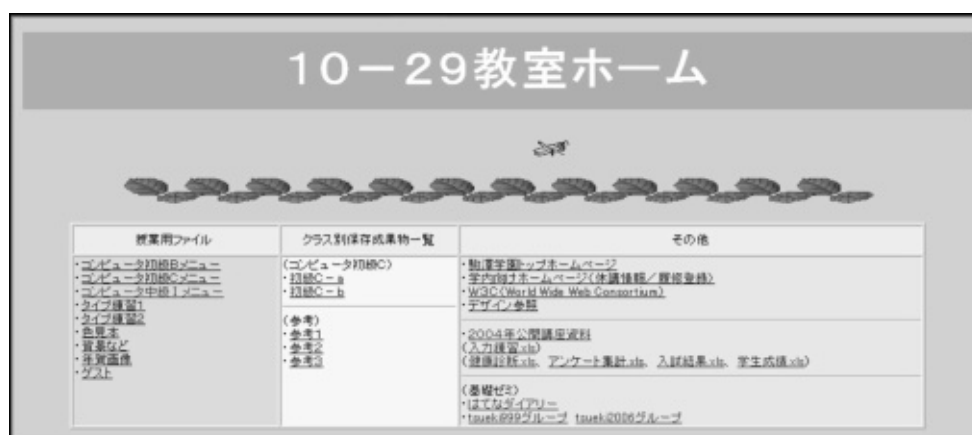
3. グループ日記記述指示

ゼミで使用するブログはグループメンバー以外は閲覧できないモードに設定する指示と、プライベート性の強い情報を書き込まない指示を出した。氏名、住所、電話番号などは書き込まない。ブログの記述中には氏名は使わず、ニックネームで記述するのが普通であろう。

基本的には、「自己紹介」、「全体授業の感想」の2つをきちんと書いてもらいたいので、この2つの項目については、カテゴリ分類・書き方の指示を出している。(図10)は、自己紹介を記述しようとしている編集画面の様子である。「自己紹介」というカテゴリ分類で記述するように指示した。1行目の記述は、“***[自己紹介] 趣味(その1)**”となっているが、“自己紹介”がカテゴリ分類名、“趣味(その1)”が日記の題名となっている。

(図11)は、全体授業の感想を記述しようとしている編集画面の例である。「全体」というカテゴリ分類で記述するように指示した。

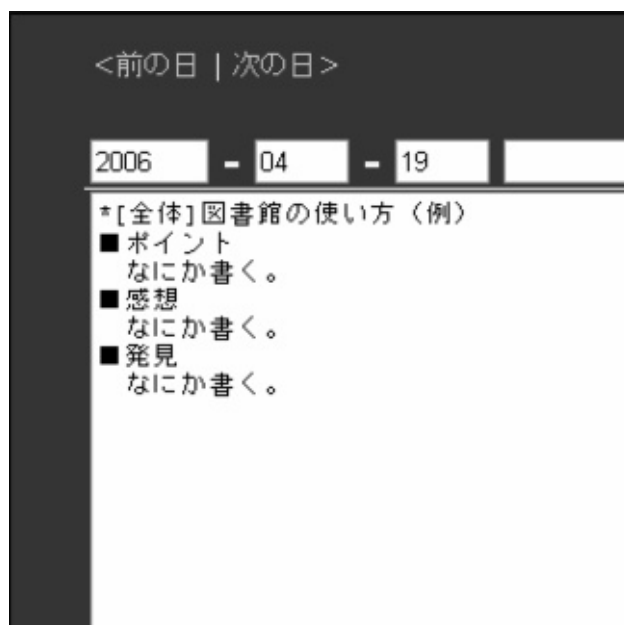
(図12)は、全体授業の感想について記述している学生の例である。画面左のカテゴリ分類



(図9)



(図10)



(図11)



(図12)

2006-04-20 編集		
■ [連絡]個別担当		
4/27	図書館の使い方	69
	文献の探し方	70
5/18	レポートのまとめ方	71
	安全な学生生活を送る1	72, 79
6/1	安全な学生生活を送る2	73, 80
	健康な学生生活を送る1	74, 81
6/15	健康な学生生活を送る2	75, 82
	健康な学生生活を送る3	76, 187
6/29	学生時間のすごし方1	77
	学生時間のすごし方2	78

(図13)

ことに尽きると思 じ始めている。』な	カテゴリー
えますし、紙のメモ もされているし、時 惑いです。	連絡
くを読んだ感じです	全体
うな気がしますが、 なことをすれば、ネ	自己紹介
	本
	読書
	雑記
	ランニング日記
	使用方法
す。	作業メモ
いこと。	旅行

(図14)

一覧から「全体」をクリックすると、「全体」カテゴリーに対応する日記が表示される。

また、全体授業の感想発表担当者割り当てについては、(図13)のようにグループ管理者(私)のグループ日記に「連絡」カテゴリーで書き込んだ。プライベート性の強い情報は書き込みたくなかったので、学籍番号の下2, 3桁のみ記載してある。

「自己紹介」、「全体」以外のカテゴリー分類はメンバー各自に任せた。(図14)は、グループ管理者(私)のカテゴリー分類の例である。

4. グループ日記運用の様子

「自己紹介」、「全体」カテゴリー以外での日記は学生各自に任せ自由に書いてもらった。学生の日記は、遊び(映画を見に行ったりとか、コンサートに行ったなど)の日記、好きな音楽の紹

介、バイト日記が主体で、絵文字が使われた短い日記がほとんどである。特に深刻な内容の記載は無い。ブログからは学生の日常生活がバイト中心であることが窺われる。多くの学生がなかなか忙しいバイト生活を送っているようで、連日深夜までバイトに励んでいる様子が窺える。比較的長文の日記はたいていバイト日記である。バイト日記では、長文で面白い日記を書く学生が2, 3名いる。このような日記はなかなか文章が上手で面白い。メールの普及のせい、昨今の学生には読みやすい・面白い文章を書くのに慣れている学生も多い。

個別クラスの授業では、学生が書いた日記をさらっと一読し、何か言うべきことがあれば指摘するようにしている。例えば、バイト先のメンバーとの飲み会、バイト先からの深夜帰宅時

のちょっと危険な行動に対するアドバイスなどである。多少深刻な問題を抱える学生の場合には、直接本人の日記に対して心理相談センターを紹介するコメントを書き込むケースもあった。

管理者（私）としては、直接学生の日記に対してコメントを書くことはほとんど無い。学生の日記の内容を受けて何か書くことがあれば、自分の日記に書く程度の対応である。グループ全体の雰囲気は、静かである。メンバー各自が自由に日記を書いている。日記の内容に対して、批判的な・干渉するようなコメントが書かれることは無い。仲のよい学生同士では、日記に短い(絵文字入りの)コメントが書かれていることもあるが、親しげ・楽しげなコメントで、書き慣れている感じである。メール文化の普及を感じる。

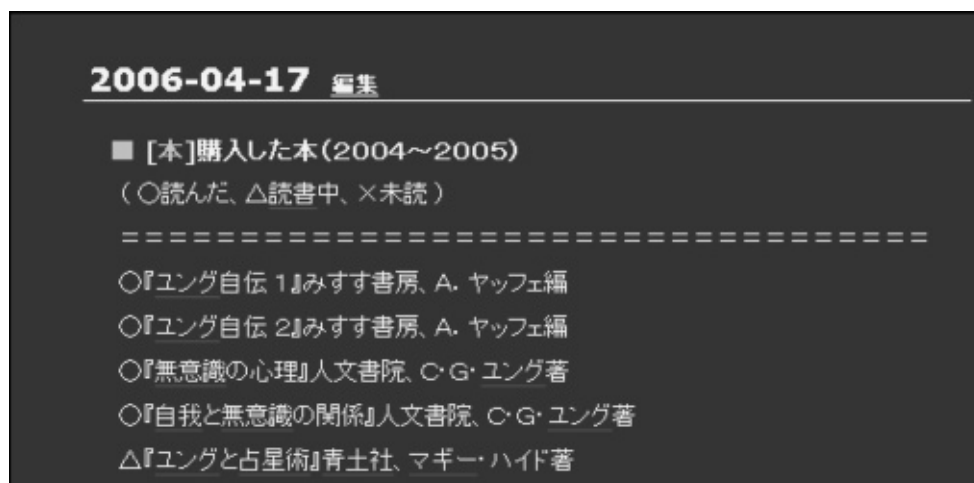
学生の日記は、遊び・バイト日記が主体であるが、管理者（私）としては、学科の内容に合わせた知的な内容の日記を書くように心がけている。学生達は人間関係（心理・社会・哲学系）を学ぶ学科の初心者達（1年生）であり、自分もパソコン指導担当の教員で人間関係（心理・社会・哲学系）には素人であるので、自分も人

間関係学科の1年生になったつもりで、人間関係（心理・社会・哲学系）系統の書籍を読んだ場合には、グループ日記に読書感想を記載することを主体にしてみた。

通常ブログは、全世界に向け公開され、予期しないコメント・中傷されるコメントを書き込まれることもあり、あまり気乗りしないのであるが、学科の初心者達（1年生）と専門ゼミ担当外の教員という構成のグループでブログを書くというのは面白い機会と言えるのかもしれない。日記の内容に対して、批判的な・干渉的なコメントが書かれない静かな雰囲気のコミュニティを得るというのも、なかなか得がたいものなのかもしれない。

具体的には管理者（私）のブログでは、「本」というカテゴリーの日記に購入・読書した本の一覧を載せ、「読書」というカテゴリーで本の内容のメモ書き、感想を記述してみた。(図15)は、カテゴリー「本」で記述した日記の例である。

だれにも読まれない完全にプライベートな日記と比較して、コメントが書かれない静かな環境でも、グループ（コミュニティー）に日記が



(図15)

公開されているという状況下で1年以上日記を書き続けることにより、思いがけず専門外の書籍を多数読むことができたことには驚かされた。インターネット・メールは、ネット中毒など悪い面が多く指摘されるが、ブログは意識的に上手く使えば、なかなか良い知的ツールなのではないだろうか。

学生の中にも、去年・今年と毎年1名、日常の出来事を書くだけの内容を変えようという意思の感じられる学生がいた。しかし、グループ全体の雰囲気が変わらなければ、むずかしいようである。

ブログは、グループ（コミュニティ）の雰囲気と、使い方によってはいい効果が出せるように感じられる。

5. ブログの効用

ブログの特徴については、梅田望夫著『ウェブ進化論 一本当の大変化はこれから始まる』にて、『ブログこそが究極の「知的生産の道具」かもしれないと感じ始めている。』と書かれている。同書内でブログの特質として以下の5点が指摘されている。ブログの知的ツールとしての特質ということであろう。

- ①時系列的にカジュアルに記載でき、容量に事実上限界がないこと。
- ②カテゴリー分類とキーワード検索ができること。
- ③手ぶらで動いていても（自分のPCを持ち歩かなくとも）、インターネットへのアクセスさえあれば情報にたどりつけること。
- ④他者とその内容をシェアするのが容易であること。
- ⑤他者との間で知的生産の創造的発展が期待できること。

①、②、③、④については、ネットワークに接続したパソコンを学生・教員全員が使える環境があるならば、ゼミでの使用において、文書の管理・コピー・配布などの必要が無くなり便利な特質である。

さらに1年生ゼミでブログを使う場合、自己紹介、遊び、趣味、日々の様子が日記に書かれることにより、メンバー同士の相互理解に寄与すること、ブログを介して互いの連絡・助け合いなど友人関係のサポートに寄与する効果があるであろう。このあたりが、ブログのゼミをサポートする補助ツールとしての有効性である。しかし、1年生ゼミの1つの大きな目的に、「学生の情報発信力・表現力の向上」というのがある。昨今では「学生の情報発信力・表現力の向上」と言うと、たいていコンピュータ（パソコン）が関連してくる。コンピュータ（パソコン）の関与する場面と言うと、以下が考えられる。

- ①ワープロによるレポート作成。
- ②表計算ソフトによる分かりやすい・効果的な資料の作成。
- ③パワーポイントによるプレゼンテーション。
- ④ホームページ・デジタル画像・ビデオ映像などのコンテンツ作成。

「学生の情報発信力・表現力の向上」と言っても、コンピュータが関わる場面はいろいろある。学部・学科によっても意味するところが異なる。

私の所属する学科では、最終的には上記③パワーポイントによるプレゼンテーション力の養成ということであろう。しかし、1年生で心理・社会・哲学系のテーマを決めてプレゼンテーションさせようとするのはむずかしい。心理・社会・哲学系のテーマでは、ゼミ担当教員（私）が専門外であるということもあり、難しく感じ

る。何かのテーマを決めてプレゼンテーションをするのは、2、3年次の専門ゼミ向きなのであろう。

では、1年次にもっと、「学生の情報発信力・表現力の向上」に寄与できるような取り組みができるだろうかと考えると、使いようによってはブログが役立つように感じられた。日記の内容に対して、批判的な・干渉するコメントが書かれない静かな雰囲気のプログコミュニティには、心地よさが感じられる。誰かに読まれているかもしれないという少しのプレッシャーが何かを書こうという意欲を与えてくれる。書く内容としては、本を読んで気づいたことのメモ書き程度でも良い効果がありそうである。静かな雰囲気のプログコミュニティでは、自己との対話というような雰囲気になる。最初は間違っただけのことを書いていたとしても、どんどん書いていくうちに思考が深まり、思考の充電がされ、ついには何らかの自分が興味を持てるテーマを追い求める内容に進化するというストーリーに導かれる可能性も感じられる。プレゼンテーションをするにも、テーマが無いのでは始まらない。学生にとっては自分の興味が湧くテーマ探しというものが大事なのかもしれない。ブログをテーマ探しをしつつ、表現力・情報発信力を高めていくツールとして使うことができそうである。

ブログは、以前書いた日記を呼び出し、内容をコピーして再利用し、内容を修正することも容易であり、試行錯誤という知的作業に適合する。

また、「はてなダイアリー」には、アマゾンというインターネット書店と連携する機能がある。日記上のキーワードから関係する書籍リストが表示されるアマゾンのホームページに展開できる。日記編集モード中の「はまぞう」という書籍へのリンクを日記中に挿入する機能も使える。「はまぞう」にキーワードを入力すると関連する

書籍が検索され表示される。さらにそこからアマゾンの関連する書籍の一覧に展開できる。そのまますぐに書籍を注文して購入することもできる。この「ブロッグー電子書店連携」も、知的ツールとしてのブログの一面であろう。

ただ、学生はそれほど積極的にブログを使おうとはしない。単なる日記として使われているだけである。面白いバイト日記などが書けているということで満足するのでも良いのかもしれないが、自分のテーマ探しを目指した使い方もあるであろう。意欲ある学生が存在していたにしても、少人数のグループでは、他のメンバーとの関係上あまり固い使い方はし難いということもあるであろう。私も学生と共にブログを書いているが、私には授業の手前ブログを知的ツールとして使わなければならないプレッシャーがあるため、日々の出来事を綴る日記としてのみ記述することは無いが、学生にはそのようなプレッシャーは無い。1つには、やはり何らかの最終的な目標があり、それに向けての作業ステップごとにブログにまとめ・報告するようなストーリーが必要なのかもしれない。

またもう1つには、グループ規模の効果もあるのかもしれない。例えば本を読んで感想を書くような、単純なストーリー性のない課題を課す場合であっても、学年全員で取り組み、ブログなどに読書感想を書き込み、それが全員に一覧表示され、さらに本のジャンル別に分類され一覧表示されるようなシステム環境で課題が実行されるなら、小さなグループ単位で課題をこなす場合と比べて、学生に与える効果も違うのかもしれない。何百人という学生がいれば、はじめに素早く課題を終える学生も存在し、特殊なジャンルの本を読む個性的な学生も存在し、文書の特別に上手な学生もみつかるとであろう。そういう学生の存在が他の学生に影響を及ぼす効果があるのではないだろうか。

また、単にブログを書くことを考えても、大人数で1つのブロググループが形成されている環境なら、ブログを単に日々の日記として書くのではなく、個性的な書き方をする学生も目につくことであろう。それを見て、真似をし始める学生が出てくるかもしれない。大人数が参加するブロググループなら、個性的な記述をすることに対する抵抗感は軽減されるかもしれない。

少なくともブログは、他のメンバーの状況を知ることができるので、良い刺激を与える効果はありそうである。例えば夏休み中の課題をブログに書き込むようなケースがあったとして、他のメンバーの状況が分からないのならたいていは課題に取り組む時期は夏休みの終わる頃というのがだいたい相場であろう。しかし1人でもまじめな学生がいて、かなり早いタイミングで課題を終わらせていることがブログから分かったとしたら、他の学生に良いプレッシャーが与えられそうである。こういう単純な刺激効果を考えても、ある程度大人数のブロググループで運用されるほうが良いのかもしれない。ただし、大規模なグループ（コミュニティ）を上手く運用するのは「はてなダイアリー」では困難である。

6. SNS・イントラブログ・社内 SNS

昨今ブログと共に、SNS(Social Networking Service)が盛んになってきている。2006年9月4日NHK『クローズアップ現代“ネット革命・個人発信が主役”』にて、ソーシャルネットワークサービスの1つmixi（ミクシィ）が紹介されていた。ピアノ教室をこれから開こうという個人が、mixiのピアノ教室教師のコミュニティに参加して、教室紹介ホームページの作り方、部屋の装丁、練習曲の選曲などかなり具体的な運営上のアドバイスをコミュニティから得ることによってスムーズなビジネス立ち上げを実現することができたという事例の紹介であった。

2006年7月26日付けyahoo!ニュースでは、『SNS「mixi」の登録者数が、7月24日（月）に500万人を突破した。さらに、女性の割合が50.5%となり、男性の49.5%を抜いた。また、20代の利用者が多いのも特記すべき項目だ。mixiでは、20代が62.0%を占め、日本国内のインターネット人口のうち20代が占める割合（18.3%）と比較すると非常に多い。』という内容の報道がされていた。若い層でSNSの利用者がすでにかなりの規模になっているようである。SNSは、すでに参加している人の招待が無いと参加できない形態が基本のようである。つまりある程度信用できる人物のみに絞ってコミュニティ参加を許可する仕組みになっている。有意義なコミュニティを構築することが目的として運用されているようである。特定のテーマを持つコミュニティが形成され、創造的な集合知を作り上げ、個人の問題解決にも集団で解決案を提示するような動きをしている。個人業者、企業家、あるいは創造的・積極的に仕事に取り組んでいるような人間にとって心強い味方となっている様子が窺える。

ゼミで運用した「はてなダイアリー」もコミュニティを形成する点は似ている。しかし、SNSはだれでも自由に参加して自由にグループをつくることはできないようである。ゼミで運用するならばSNSは使いにくい。

SNS・ブログと関連して、イントラブログ、社内SNSという新しい概念がある。これらはある組織内部で閉じたブログ・SNSということで、社内連絡用ツールということになるであろう。今までのメールでの連絡では、上司対部下という具合に特定の人間同士のやり取りだったのだが、イントラブログ、社内SNSとなるとそれが社内・あるいは部署全体に公開される。情報を共有し、アイデアを出し合い、組織の枠組みを越えた人間関係を育て、効率よく・創造的

に仕事をしていこうという発想のものである。『SNS 的工作術ソーシャル・ネットワーキングで働き方を変える!』の記述によると、『SNS は効果的な自己発信のためのトレーニングを行うのにたいへん優れたツールである。』、『それは「自分の個としての特性を発信する場」というイメージです。最近の言葉でいえば、「自分ブランドを確立するサイト」という感じでしょうか。』、『SNS で関係を築く(リンクを張る)にあたって、「自分は何者か」「相手に何ができるのか」「相手にとってどういう意味を持つ人物なのか」がはっきりしないと、リンクの意味が薄いのではないか、と思ったのです。』、『SNS のブログとは、「人より詳しいこと」、「人より得意なこと」、「好きなこと」、「気になること」、「その分野の専門家に見られたいこと」、「すでにたくさんあつめているもの」などを追求すべく書くべきもの。自分がたとえ最初に明確な目標を持っていなかったとしても、自分の興味と強みがある分野をもとに目の前に道が現れてくる。』などと説明されている。しかし、企業内で運用されるイントラブログ、社内 SNS、広く社会に開かれた SNS で、そのように自由な自己発信、自分探しをするような使い方ができるものであろうか。特に、企業内イントラブログ、社内 SNS では、仕事に直接関わった内容で、業務経験を積むにつれて次第に専門家としての知識・智慧を披露できるようになっていくというのが主であろう。

しかし、もし大学内でイントラブログ、社内 SNS が運用されるならば使われ方は違うかもしれない。学生が最初は、稚拙で、誤った内容で文章を書いたとしてもとがめられるような問題ではないであろう。自分探し、自己発信のよいトレーニングの場となりうるのかもしれない。

1 年生ゼミにて、運用した「はてなダイアリー」は、ブログではあるが 1 人の管理者が中心

となって明確なコミュニティ(グループ)を構築できるものであった。しかし、大人数のブログコミュニティを運用しようとする場面ではいくつか不便な点が指摘できる。もし、将来的に学内でブログコミュニティの利用が高まってくる状況があるとする、使い勝手が悪い。

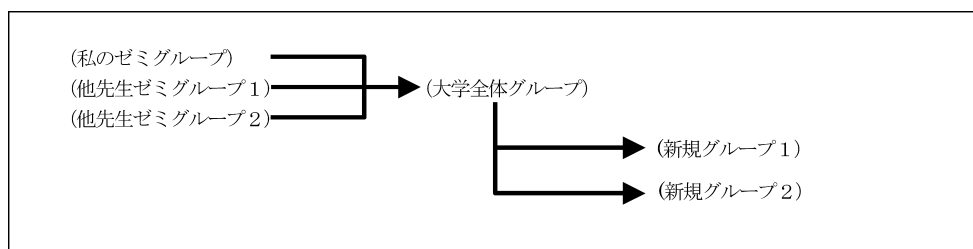
問題点①：コミュニティ拡大が面倒であること。新規メンバー登録時は、「はてな」へのユーザ登録→登録名を管理者に伝える→管理者からの招待状(メール)発信→管理者からの招待状(メール)を受信して招待受諾処理という面倒な手順が必要である。

問題点②：コミュニティの移行・合併・分離等の操作ができないこと。グループの解消はできるが、そのまま継続して 2 年生ゼミに移行させたり、あるいはもっと大きなグループにメンバーを移行させるような処理ができないこと。

もし、ブロググループの移行・合併などの操作が可能であるなら(図16)のような管理が可能であろう。仮に私だけでなく他のグループも 1 年生ブロググループを運用していたとすると、2 年時以降は各学生のブログは存続させたまま、(大学全体グループ)とでも言うべき大きなグループに一旦移行させる。そして新たな専門ゼミでブロググループを作成する場合には、(大学全体グループ)からメンバーを選択して新規な小グループを構築することができる。

(大学全体グループ)は事実上永遠に継続するようなグループの位置づけでもよいであろう。場合によっては卒業後の元学生からの記載があっても面白い。

イントラブログ・社内 SNS という概念は簡単に言えば、ある組織で閉じたブログシステム



(図16)

の運用を意味するものなので、前記（図16）に示したようなブロググループの移行・併合・分離等の操作が簡単であろうと想像される。企業なら全社員は社員番号（コード）、大学なら教職員は教職員番号（コード）、学生は学籍番号（コード）で管理されるので、社内・学内システムと連動したイントラブログ・社内 SNS を運用すればブロググループの移行・併合等の管理は容易なはずである。グループ管理者からの招待を発信し、招待を受けたメンバーの受諾処理を行うような面倒な処理は一切不要であろう。また、イントラブログ・社内 SNS は、単なるブログの集合体というだけではなく、情報検索・データ抽出機能も合わせて整備されているはずなので、ブロググループ分けの垣根を越えて必要な情報をもれなく抽出して一覧表示するページを簡単に作成できそうである。

大学にてイントラブログ・学内 SNS が運用されていると仮定すると、以下のような使われ方が想定できるかもしれない。例えばゼミ単位にブロググループができていくとする。学生・教員各自は、それぞれ独立したブログを書く。各ゼミでは、ゼミメンバーのブログのみが一覧表示されるグループ画面を使ってゼミを行う。そして、「読書感想文コンテスト」のような全学的な企画が実施されたとする。学生は読書感想文を自分のブログに書き込む。その場合、「読書感想文コンテスト」というような決められたカテゴリー分類で書く。すると、全ての学生が書

いた読書感想文のみ抽出して一覧するような画面（「読書感想文コンテスト画面」）が簡単に作成できることが想像される。「読書感想文コンテスト」というカテゴリー分類がつけられたブログ文章のみ抽出して一覧表示するだけのことなので簡単であろう。

単なるブログの利用では、たいした効果は期待できないだろうが、学内でパソコンが置かれた小教室が増え、イントラブログ・学内 SNS 環境が整った状況下では、ブログ利用のいろいろなアイデアが出てくるのではないだろうか。

学内で、事実上永遠に継続する大規模（多人数）なブログ環境を運用しようとすると年々登録学生数が増え管理が難しくなる問題はある。情報漏えいの問題もあり簡単にはいかないかもしれないが、学外の管理会社のサーバ内でシステムが動いている形態でイントラブログ・学内 SNS が運用され、教育活動に有効活用されるような時代の到来も予想される。

アメリカに Facebook (<http://www.facebook.com/>) という SNS がある。『SNS ビジネス・ガイド Web2.0 で変わる顧客マーケティングのルール』によると、『2004 年からスタートし、会員数 700 万人（2006 年 3 月時点）。大学を対象とした SNS サイト。800 校以上の大学が参加している。登録には大学が発行するメールアドレスが必要。講義や出身地など、キャンパス内での学生同士のつながりをオンライン化し、学生間のコミュニケーションの場として欠かせ

ない存在となっている。』と説明されている。最近ではいくつかの企業も参加しているということであり、そうなると就職活動においても何らかの影響がある SNS となっていくのではないかと想像される。

SNS と言っても、1つの大学内で閉じたシステムなのか、いくつかの大学で共有するようなシステムなのか、あるいは企業も巻き込んだ就職活動にも関係するようなシステムなのか、システムの形態・使われ方がいろいろありそうである。今後大学が関連する SNS というものが出現してくる時代が来るのかもしれないが、SNS がどのような形態で運用されて行くようになるか注目していきたい。

7. 結び

2005年度から1年生のゼミで「はてなダイアリー」というブログを運用した。現状では、ゼミをサポートする補助ツールとして活用できている程度である。『ウェブ進化論 一本当の大変化はこれから始まる』では、『ブログは個にとっての大いなる知的成長の場』、『実際ブログを書くという行為は、恐ろしい勢いで本人を成長させる。ブログを通じて自分が学習した最大のことは、「自分がお金に変換できない情報やアイデアは、溜め込むよりも無料放出することで（無形の）大きな利益を得られる」ということに尽きと思う。』、『ブログこそが究極の「知的生産の道具」かもしれないと感じ始めている。』などと述べられている。

まず言えることは、ブログは少なくとも文章を書く練習にはなる。また試行錯誤的に思考を発展させる知的ツールの1つであるとは言えそうである。また、ブログが書かれる環境によって、違った効果が期待できるものかもしれない。自分のみ閲覧できる環境、グループ（コミュニティ）メンバー全員が閲覧できる環境、ある共通のテーマを持ったグループ（コミュニティ）、

世間の任意の人間に公開される環境、コミュニティの規模の大小、コミュニティ内でコメント・意見のやり取りが多い活発な環境、逆に他人のブログに介入しない静かな雰囲気的环境など、環境によって効果が変わると思われる。

大学という環境も特別な環境である。自己実現・自己確立の途上のメンバー、生涯において重要な友人関係が作られる年代のメンバーが集う大学にて、上手く環境が整えられたのなら、それは多くの学生が自由に・広い視野で試行錯誤し、自己発信する訓練をする得がたいブログ環境となるものかもしれない。また、単に在学中のみということではなく、卒業後も一生涯に渡って関係するような環境にも成り得るものかもしれない。

1つのゼミでブログを使うような取り組みをしてもあまり多くは期待できない。現状小さなグループでブログを使っているだけのブログの補助的利用の段階である。今後、将来を見据えて、ブログの活用法について考え続けていくつもりである。

【参考文献】

- 1) 『ウェブ進化論 一本当の大変化はこれから始まる』梅田望夫著、2006年、株式会社筑摩書房
- 2) 『全部無料でつくるはじめてのブログ』(有)ジャムハウス著、2005年、株式会社廣済堂
- 3) 『SNS 的工作術ソーシャル・ネットワーキングで働き方を変える!』鶴野充茂著、2006年、ソフトバンククリエイティブ株式会社
- 4) 『SNS ビジネス・ガイド Web2.0で変わる顧客マーケティングのルール』斉藤 徹他著、2006年、株式会社インプレスジャパン

- 5) 『ビジネスブログブック』小川 浩・四家正紀・上田一吉著、2005年、株式会社毎日コミュニケーションズ
- 6) 『ビジネスブログブック <2> ブログとRSS によるマーケティング革命』小川浩・佐藤匡彦・林 信行・後藤康成・青野慶久著、2005年、株式会社毎日コミュニケーションズ
- 7) 『ビジネスブログブック <3> イントラブログと社内 SNS の可能性』小川 浩・佐藤匡彦・林 信行・後藤康成・青野慶久著、2005年、株式会社毎日コミュニケーションズ